

まちのうごき

(1月1日現在)	(12月中)	
世帯数 17,069世帯	生まれた人 50人	
人口 53,367人	亡くなった人 24人	
男 26,294人	転入した人 212人	
女 27,073人	転出した人 266人	

向日市 広報

No.421

昭和63年2月1日

◎発行 向日市役所(京都府向日市寺戸町中野20)
◎編集 秘書広報課 ◎電話 075(931)1111



2,183万円が 灰に

昭和62年

無火災都市の 実現を目指して

2183万円……。私たちに、莫大な金額が昨年1年間に、向日市内で火災によって灰になりました。ちよつとした注意さえすれば防げる火災。いま一度火元の点検を。

火災件数は 12年ぶりに二ケタ

向日市消防本部は、このほど、昭和62年中の火災、消防事故、救急救助の発生状況をまとめました。62年中に市内で発生した火災は10件で、50年の12件以来、12年ぶりに二ケタとなりました。10件のうち飲食店などの建物火災が9件で、焼失面積は269平方メートル、残る1件が車両火災で、2183万円が灰になってしまったことになります。

市内の火災は46年の23件をピークに徐々に

減少し、51年から61年までの11年間は一ケタ台の低い出火を誇ってききました。しかし、昨年は、本来なら火災の少ない5月から7月にかけて5件発生し、ついに12年ぶりに二ケタの10件を記録しました。

救急出動は 増加傾向

救急は890件。内訳は急病398件、交通293件、一般負傷95件、運動競技41件、労働災害7件などで、消防本部では「高齢化社会と屋内で発生した急病が救急の対象になったこと

消防事故も 一つまちがえれば 火災に

火災に至らなかった消防事故(小火)は37件で、中でも多いのが、ふろの空だき12件と全体の半弱を占めています。ついで、たき火の拡大6件、天ぷら油の過熱5件などとなっています。「これらの消防事故も一つまちがえれば火災に至るものばかり」と本部では注意を促しています。

消防施策を 強力に実施

今後消防本部では、昭和40年代後半から実施してきた、町内会等に対する消火器補助制度やねたきり老人家庭等への火災警報器具の貸与制度(下参照)や、防火啓発活動、防火診断、立ち入り検査などの施策を強力に実施し、低出火都市を堅持し、さらには無火災都市を目指していきます。

社寺防火訓練を実施 1月20日

「社寺防火運動週間」初の1月20日、市内で唯一の重文本殿をもつ向日神社で、自衛消防班5人と消防署員22人、消防車など5台が出動し、大がかりな消防訓練が行われ、文化財を火魔から守る決意を新たにしました。



消防フラッシュ



防火の誓い新た

向日市消防出初式

向日市消防本部と消防団は、1月15日、消防庁舎西側で、職員・消防団員ら約200人と、消防車など16台が参加して、「消防出初式」を行いました。式では、乙訓ブラスオーケストラと西山高ブラスバンド部の演奏に合わせて、部隊観閲などのあと、民秋市長が「災害のないまちづくりへ、消防行政に最大の努力をする決意だ」と告辞しました。このあと、会場を競輪場内に移し、分列行進に続き、中央グラウンドの上空へ向かって一斉放水をし、防火の誓いを新たにしました。なお、式では、消防行政に功勞のあった消防団員の方々に、片山健三副知事などから表彰状が手渡されました。

ご利用ください

消火器の設置補助制度 自動火災警報器具の貸与

- 消火器の設置補助制度■
この制度は、地域の火災予防体制の強化をはかるため、町内会などで共同設置される消火器や格納箱に対して、その費用の一部を補助するものです。
- 対象地域■
戸数20戸以上の町内会、自治会又は隣組
- 対象消火器■
泡消火器10型(8.5Q)又は粉末消火器5型(1.6kQ)以上

- 補助額■
消火器設置経費の3分の1以内を補助
- 自動火災警報器具の貸与■
市内に居住されている65歳以上のねたきり老人や、1人住まいで病弱な方、身体の不自由な方に、自動火災警報器具を無料で貸出す制度です。
火災警報器具は、火災が発生すると、いち早く「感知器」がキャッチし、「受信機」を通して「ベル」が鳴り、家族や近所の人に知らせる仕組みになっています。
また、耳の不自由な方には、点滅ライトで火災を知らせる装置もあります。
- 申込み・お問い合わせ■
消防本部予防課 ☎934-0119